



 INDONESIA

製造現場の安全を支える 独自の活動も展開しています

安全課 コーディネーター
John Robert Taka

私の勤務するWIN-Iは9年以上にわたり無事故無災害という実績を誇ります。当社が住友電工グループの安全衛生の考えを理解したうえで展開する、インドネシア独自の文化や特色に合わせた安全活動をご紹介します。

インドネシアの文化を踏まえ、 対話を重視する

インドネシアは日本と比べると安全に対する意識が低く、そのためWIN-Iでは独自のスローガンや目標を毎年策定し、安全衛生教育に努めています。加えて独自の安全活動を多数実施することで安全への意識を高めています。たとえば館内放送を通じて、毎日従業員自ら安全啓発を目的としたメッセージを発信するデイリースピーチ、毎日1回工場内を巡回し、ベルを鳴らしながら現場作業員に安全を呼びか



けるベルパトロールなどです。そのほかにも1-2-3運動*、MSTS活動(部門ごとに行う安全ミーティング)、月例の安全ミーティング、コミュニケーションミーティングなど、コミュニケーションを重視した安全活動も多数行っています。

インドネシアでは現場での「対話」が特に重要です。それはインドネシア人にはミーティングで意見を言わない傾向があるためです。それを踏まえて安全活動専任者である私が毎日最低でも2回工場をパトロールし、作業員に直接話しかけて不安全な場所、設備に関する情報などさまざまな問題点の把握に努めています。そのほか全従業員参加の月次

ミーティングは、社長が会社の業績に加え、安全実績について報告をするなど、管理者と従業員が直接安全について情報交換を行う貴重な場となっています。

厳格な目標を設けた研修を実施

加えてWIN-Iでは、事故を未然に防止し、リスクを減らすためにさまざまな安全研修を実施しています。危険予知訓練、応急処置研修、KKP研修*、K-3研修*などがその例です。内容に応じて出席率に厳格な目標を定め、たとえば危険予知訓練であれば全従業員の参加を必須とするなど、妥協のない安全活動を展開しています。全従業員の完全受講のために危険予知訓練を毎月1回は必ず実施しています。さらに各研修後にはテストを実施し、正解率が80%以上の場合のみ合格とし、不合格者は再度研修を受けるよう義務づけています。また毎月安全活動専任者である私が経営層に全ての安全活動の進捗状況を報告し、そこで目標の達成状況について話し合う場を設けています。



目標達成に一丸となって取り組む

WIN-Iにおいても、住友電工グループの長期ビジョンや中期目標、計画は全従業員に共有され、組織にプラスの効果をもたらしています。安定的な業績や研修の質の高さは、

用語
解説

*1-2-3運動

各部門トップおよび管理監督者が、[1]日に[2]回、現場を巡回し、[3]件以上の指摘・声かけを行い、問題点を抽出する運動

*モノづくり基盤強化研修(KKP)安全衛生編
安全衛生に関する実践教育。安全管理の考え方・進め方、危険予知などを身に着ける

*K-3研修

インドネシア政府が定めた、労働災害や疾病障害を防止するための「労働者に対する」安全衛生教育プログラム

従業員に長く安心して働くことができる環境を創出しています。私は住友電工グループの一員として働くことに誇りを持っています。現在の目標は、無事故3,650日です。これからも全従業員が一丸となって安全活動に取り組んでいけば、きっと実現できると信じています。



WIN-Iの安全活動

》デイリースピーチ

毎日従業員自らが考えた安全についての意見を館内放送を通じて発信する活動です。導入当初は参加を嫌がる従業員もいましたが、現在ではその意義を理解し、全従業員が参加しています。



》ベルパトロール

毎日1回、昼食休憩後にベルを鳴らしながら工場を巡回し、現場作業員に安全を呼びかける活動です。安全に対する意識を常に保ち、緊張感を持って職務にあたるのが目的です。製造部門はもちろん全部門を対象に行っています。



製造課長

VOICE

「対話」が、当社の安全活動を支えています

安全活動専任者であるJohnさんの安全活動への貢献は非常に大きく、従業員と経営層の対話が生まれたのは彼の熱意によるものだと思います。彼が企画した小規模安全ミーティング(MSTS)では、改まった場では意見を言うことができない作業員たちも自由に意見を言うことができ、ボトムアップ活動の推進を支えています。

また、WIN-Iの製造設備は日本や他拠点から移設された古い設備が多く、グローバルスタンダードに適合していないものもあります。改善には設備停止による機会損失や設備改造コストなど多大な費用が必要ですが「安全は全てに優先する」のスローガンと経営層の理解の下、不安全設備撲滅を目指し、少しずつ改善を進めています。今後も引き続き、労働安全衛生活動に尽力していきたいと思っています。



製造課長 Bonar Sinaga

世界トップレベルの安全活動の展開を目指して

住友電工グループの安全の根底にあるもの、それは「安全は全てに優先する」こと。そして「従業員の安全を守る」ことです。それは、海外拠点においても何ら変わりありません。海外売上高比率が50%を超える当社グループでは、海外拠点においても設備安全と安全管理のグローバルスタンダードを徹底的に浸透させる活動を展開しています。

安全活動に熱心に取り組んできたSEPM、WIN-IIはトップを中心に課題を組織全体で吸い上げ、改善を行う体制が構築されています。日本からも安全活動のあり方について提案はしますが、自分たちで考えることが重要であり、安全活動専任者が先導し独自に作り込んだ安全活動の方が間違いなく成果が出ます。小集団活動のなかで、現場の困りごとを吸い上げて改善する仕組みなど、日本が見習うべき素晴らしい活動も展開されています。今後も世界トップレベルの安全企業を目指し、私たちのどこに弱みがあるのかを把握し、17VISION以降の計画につなげていきたいと考えています。



安全環境部長 大岡 伸哉